

## 第 59 回 九州経済同友会大会アピール

アジア時代が到来するなか、低迷の続く九州経済を活性化するためには、アジアとの経済交流を深化させ、アジアの活力を九州に取り込む必要がある。九州の企業はアジアビジネスの経験は少ないが、今後、業種や企業規模の大小を問わず、あらゆる企業がアジアとのビジネスを本格的に展開しなければならない。

幸い、九州はアジアと至近の距離にある。九州は自動車・半導体・環境産業をはじめとして、アジアが求める技術を保有している。所得水準が高まっているアジアの人々が求める安全・安心な食材や魅力的な観光資源にも恵まれている。我々企業人はこれらのポテンシャルを最大限に活用して、リスクをおそれずアジアとのビジネスに果敢に挑戦し、九州がアジアと日本の交流の拠点となることを目指す。

そこで、我々企業人は、官民が連携して以下の4点に取り組むことを宣言する。

### 1. 九州の技術力を活かす

九州の中小企業は、自動車や半導体・太陽電池の製造で培った精密加工技術、公害防止や水処理を始めとする環境関連技術など、高い技術を保有している。九州が保有するこれらの技術に対して、アジアの需要は着実に増大すると予想される。そこで我々企業人は、これらの技術を活かした製品・サービスをアジアに積極的に売り込み、アジアの市場を開拓する。

特に、アジアにおいて成長が期待される水ビジネスについては、官民が連携して施設の整備から運用まで一貫したシステムとして市場開拓に取り組むべきである。

九州の技術をアジアに売り込むためには、アジアの企業人との人脈づくりが必要である。経済ミッションや商談会あるいは自治体の姉妹交流は人脈形成の重要な機会であり、官民が連携して市場開拓のための交流機会の拡充に取り組む。

### 2. 九州のブランド力を高める

九州が生産している安全で安心な一次産品や加工食品は、所得の向上したアジアの人々にとって高級食材として、認知されつつある。

また、九州の豊かな自然や温泉、清潔な街並み、美しい盛りつけの食事、店舗での行き届いた接客などは、アジアの人々に魅力的な観光資源として評価を受けている。

我々企業人は、九州の食材のさらなる品質向上を図り、医療ツーリズムの受け入れなど九州の観光地としての魅力に磨きをかけることで、九州ブランドの確立を目指す。そのために、九州の食材と観光の一体的なPR活動をアジア各地で展開し、九州のブランドで食材を売り出すことで、アジアでの九州の認知度を高める。

### 3. グローバルな人材を育てる

アジアとのビジネスを成功させるためには、当該国の言語習得、商慣行や文化・国民性の理解が不可欠である。我々企業人は、アジアとの人的交流やビジネスの実務を通じて、グローバルなビジネスを担う人材を育てる。また、社員の目を若いうちから海外に向けさせるために、海外出張、海外駐在、海外研修など、社員が海外の現地を体感できる機会を拡充する。

九州の大学は、アジアを中心に多数の留学生を受け入れている。我々企業人は留学生を中心とする外国人を積極的に採用することで、アジアとのビジネスを推進するとともに、グローバル企業を目指して社内の意識改革を実現する。

留学生の採用に関しては、九州の企業・自治体・大学が連携して、留学生と企業とのマッチングの場を設けるなど、九州企業への留学生の就職支援制度を拡充する。

#### 4. 九州の地の利を活かす

九州はアジアとの近接性というポテンシャルを有している。これを最大限に活かすべく、より速く、より安く、より便利な交通ネットワークを構築し、わが国とアジアを結ぶ経済交流拠点としての地位の確立を目指す。

そのためには、九州の主要空港・港湾において、税関・出入国管理・検疫（C I Q）体制の充実、アジアの主要都市を結ぶ高速貨物船や格安航空会社（ローコストキャリア）の航路・航空路の拡充など、ハード・ソフト両面での基盤整備が必要である。その際に、PFI方式の採用など民間の資金・ノウハウを導入し、早期かつ低コストでの整備を実現すべきである。

平成 22 年 11 月 11 日

九州経済同友会

代表委員 石原 進

代表委員 大城 勇夫

福岡 経済同友会

佐賀 経済同友会

長崎 経済同友会

熊本 経済同友会

大分 経済同友会

宮崎 経済同友会

鹿児島 経済同友会

沖縄 経済同友会